

オアシス通信



向きを変えて、出発せよ

牧師
小山大三

新年、明けましておめでとうございます。二〇一七年、皆様の上に、神の恵みと祝福が、豊かに注がれますように。

主なる神は、エジプトを出てシナイ山で律法を授けられたイスラエルの民に申命記1章7節で言われました。「あなたがたはこの山に長くどどまっていた。向きを変えて、出発せよ。」

イスラエルの民は、約一年間ホレブ山に留まっていた。 (参照出エジプト19・1、民数10・11-13) ここでのホレブ山は、マンネリの山とつぶやきの山の二つの山を象徴しています。

一、マンネリの山

一年も同じ所にいると、動きたくなくなり、民はエジプトから自由になったが、どこへ向かっているのか忘れてしまいかねませんでした。私たちの人生もマンネリ化の中に埋没してしまう傾向があります。マンネリ化症候群の特徴は、①無感動②無関心です。聖書を読んでも、諸集会に出ても無感動になってきたら気をつけなければなりません。さらに進むと、無関心になってしまふからです。聖書は、神の言葉に対する無関心は罪であると教えています。(参照ルカ16・31)

二、つぶやきの山

私たちは、何でも物事を否定的に考える傾向があります。そして、神の愛と力を疑い、不平不満を口にしてしまいます。イスラエルの民の問題は、まさにここにありました。(参照申命記1・27)

三、方向を修正する

ここで大切なことは、「向きを変える」、つまり悔い改めて方向を修正することです。そして、その方向は自分の思いだけで判断する勝手な方向ではなく、主なる神の言葉に基づき、主に従順に従う正しい方向でなければなりません。イスラエルの民の目的地はカナンの地でした。カナンの地は、第一に天国を象徴しており、第二に信仰の勝利の結果与えられる喜びと平安と安息を象徴していません。(参照ヘブル4・2-3)